

「ナラ枯れ」とは？ドングリの木が 枯れていく仕組み

「ナラ枯れ」とは？ ドングリの木が枯れていく仕組み

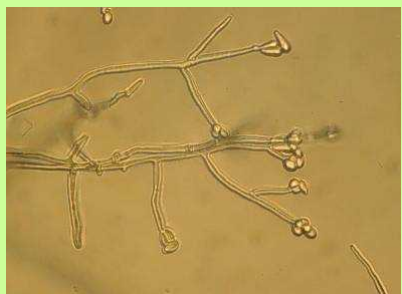


左上下:ミズナラの枯死、右上:マテバシイの枯死、右中:枯死木の地際、
右下:カシノナガキクイムシ穿入孔

近年、ナラ類やシイ・カシ類など「ドングリの木」と呼ばれる樹木が集団的に枯死する現象が全国で発生しています。

講師：衣浦晴生（森林昆虫研究領域）

「ナラ枯れ」とは？ ドングリの木が枯れていく仕組み



病原菌：

Raffaelea quercivora
(通称、ナラ菌)

寄主植物：

ミズナラ、コナラが主で、
その他、カシ類、シイ類など

枯死機構：

辺材部でナラ菌が蔓延し、
通水機能が停止することによる
萎凋(しおれ)・枯死

病原菌の媒介者：

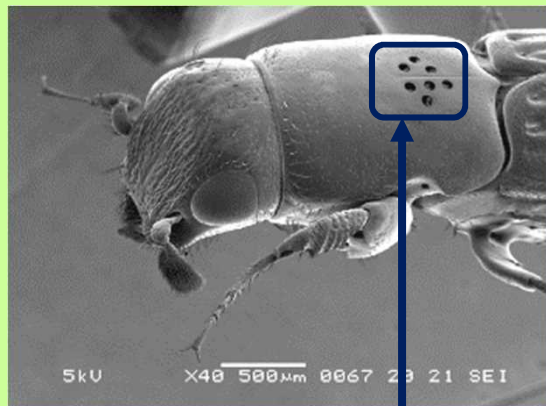
カシノナガキクイムシ



カシノナガキクイムシはどんなムシ？

体長：4.5～5mm

一夫一妻性の習性(1孔に♂♀1頭とその子供たち)で、共同生活型の孔道を形成します。メスの前胸背には共生菌類を運搬する菌嚢(マイカンギア)があります。共生菌は酵母類であり、ナラ菌と共に運搬されます。



菌嚢(マイカンギア)

ナラ枯れ対策は？



それぞれ異なるナラ枯れ発生地域

- ★自然植生(ミズナラ林、マテバシイ林…)
- ★アクセス(都市公園、奥山林。海岸林…)
- ★土地利用の歴史(住民の意識)など…

→ そこで何ができるのか、何が必要か様々な条件を総合的に判断することが重要